

この人に懸ける わが家のホープ

このコーナーでは、毎月あみか21で行っている7カ月児のあかちゃん相談に参加したお子さんを紹介しています。

みやびちゃん
北本 雅
お父さん：慶次朗さん
お母さん：晴香さん
住まい：白浜



えまちゃん
大丸 咲菜
お父さん：拓也さん
お母さん：未来里さん
住まい：白浜



ゆうせいちゃん
大澤 勇聖
お父さん：隼人さん
お母さん：里紗さん
住まい：白浜



りくちゃん
太田 稜久
お父さん：康史さん
お母さん：由記さん
住まい：白浜



熱中時間

厚岸かぐら同好会

Information

【問い合わせ】：海事記念館 ☎52-4040

町の無形文化財「厚岸かぐら」の伝承活動を行っている厚岸かぐら同好会。厚岸かぐらは、江戸時代後期から末期にニシン漁で賑わう厚岸にわたってきた南部地方（現在の岩手県・青森県の一部）の漁師達が、ふるさとから遠く離れた寂しさを慰めるために舞っていたものを、同じ漁場で働いていたアイヌの人たちが自然に習い覚え、アイヌの踊りと融合して現在のかぐらに発展したと伝えられている。

昭和55年から同好会に加入している会長の畠山竹士さんは「だいぶ高齢になってしまったが、若い子のエネルギーをもらって頑張っている。他の団員や海事記念館の支援があつてここまで続けてこれた。厚岸かぐらを後世に残していきたい」と力強く話してくれた。

団員の面森祐太さんは「小学校3年生から厚岸かぐらを始めた。『恵比寿舞』の鯛を触りたいと思ったのが始めるきっかけ。お客さんに語りかけるように演じることを心がけていて、笑ったり楽しんでくれている姿を見るのがうれしい。現在の団員は4名で、厚岸かぐら少年団の団員にも出演してもらっている。今は厚岸かぐらを今後につなげていきたいという気持ちが強くなっている」と笑顔で話してくれた。